

さいたま市外国人市民委員会 委員各位

さいたま市 経済局 商工観光部 観光国際課長

第4期さいたま市外国人市民委員会 第6回委員会の開催について（お知らせ）

日頃、さいたま市国際化推進施策にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

さて、第4期さいたま市外国人市民委員会 第6回委員会についてですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面会議にて開催いたします。

第5回委員会の際にいただいた意見を踏まえ、別紙2のとおり提言書を修正しました。

つきましては、2月4日（金）までに、別紙3「回答書」をメールもしくは郵送にて回答してください。

記

1. 送付資料

・次第

・委員名簿

・別紙1： 第1回、第2回、第3回、第4回、第5回委員会の意見内容について

・別紙2： 第4期さいたま市外国人市民委員会 提言書（案）

・別紙3： 第4期さいたま市外国人市民委員会 第6回委員会 回答書

【お問合せ】

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市役所 観光国際課 担当：増子・松本・小河原

TEL：048-829-1236 FAX：048-829-1944

E-mail：kanko-kokusai@city.saitama.lg.jp

だい き 第4期
し がいこくじん し みん い いんかい 外国人市民委員会
だい かい いんかい 第6回委員会

にちじ れいわ ねん がつ にち げつ
日時：令和4年1月17日（月）から

れいわ ねん がつ にち きん
令和4年2月4日（金）

し だい
次 第

1. ぎ じ
議 事

がいこくじんし みんいんかいでいげんしょ あん たい いけん
外国人市民委員会提言書（案）に対する意見について

第4期さいたま市外国人市民委員会委員名簿

	氏名	フリガナ	性別	備考
1	林 景禧	リム キョンヒ	女	委員長
2	李 柔珍	イユジン	女	
3	Hughes Leander	ヒューズ リアンダー	男	
4	頼 沃徳楽	ライ ウダラ	男	
5	王 蕾	オウ ライ	女	
6	羅 昊	ラ コウ	男	
7	土橋 アウロラ	ドバシ アウロラ	女	
8	里村 オアナ・ジョルジアナ	サトムラ オアナ・ジョルジアナ	女	
9	西川 ナンシ	ニシカワ ナンシ	女	
10	ゴンザレス アドリアナ	ゴンザレス アドリアナ	女	

第 1 回委員会の意見内容について

令和 2 年 7 月 30 日（木）から 8 月 14 日（金）まで各委員に対し意見を求めたところ、以下の意見の回答があった。

議題 1 「第 4 期さいたま市外国人市民委員会のテーマについて」

委員意見

①ゴンザレス・アドリアナ委員

- ・ テーマ案「外国人が住みやすい地域づくりの為にすべきこと」

テーマ選定理由

- ・ さいたま市に引っ越した際に、市の案内が少なく、地域のことがわからない
- ・ 外国人は、地域、自治会への関わり方がわからないため、説明が欲しい
- ・ 外国人がさいたま市へ引っ越して来たくするような PR が足りない
- ・ 住んでいる地域の日本語の勉強、日本のマナーやルールを教えてくれるところが少ない

解決策

- ・ 市の担当者が自治会、学校へのリーダーシップをとって市、自治体、学校でのオリエンテーションを行う
- ・ 自治会、国際交流センターの紹介
- ・ 市のホームページをもっと良くする
- ・ 市の担当者と不動産会社、自治会とのコミュニケーションを強くして情報交換を行う
- ・ 自治会を使っの日本文化、日本語勉強会のボランティア活動を行う

②リム・キョンヒ委員

- ・ テーマ案「コロナ時代における日本人と外国人の交流方法やオンライン交流時のプライバシー保護について」

テーマ選定理由

コロナ時代の今、人々の交流が少なくなりました。特に外国人は社会との関わりが希薄になる可能性が高いため何かよい交流方法が必要になると思います。

また様々な分野でオンラインが活用されており、日本人と外国人のコミュニケーションの手段としてよいと思いますが、その一方でプライバシーの保護も考えていく必要があると思います。

③ラ・コウ委員

- ・ テーマ案「外国人家族に対する日本語教育の支援について」

テーマ選定理由

さいたま市では、毎年外国人人数が増えています。その中に日本語が出来ない人はたくさんいます。彼らに充実した勉強場所の提供と日本語教室を作る必要があります。彼らがさいたま市で安心して生活するため、支援する必要があります。

④オウ・ライ委員

・テーマ案「国際的な街づくり」

テーマ選定理由

外国人は同じ国の人と友達作りしやすいという特徴があります。周りの日本人とのコミュニケーションは不安を持っている人が多いです。また、日本人も外国人に誤解を持っている人も多いです。お互いの理解を促進するために、イベント開催やパンフレットの配布などを行って、コミュニケーションをしやすい環境をみんなと一緒に作りたいです。さいたま市は外国人の住民が多いけど、国際的な感じはあまりないと思います。外国人はコミュニケーションの壁を超えることができれば、もっと生活が楽しくなると思います。そうすることで、さいたま市は誰でも住みやすい、国際的な街になると思います。

⑤イ・ユジン委員

・テーマ案「育児や子供の教育、子育てのための情報案内」

テーマ選定理由

私は今ちょうど子育て中のママです。仕事あるので保育園に行かせています。日本の子育ての話や方法を話したいですがなかなか機会がありません。日本のママ(ママだけじゃなくてパパも)たちと多文化のママ・パパたちの意見や知りたい情報を共有できるサービスがあったらいいなと思います。これからもっと増える外国人の子供達、家族が日本の生活への混乱を減らせるように育児の段階からちゃんとした話をする必要があると思います。

⑥里村・オアナ委員

・テーマ案「外国籍の住民として住みやすいまちづくり」

テーマ選定理由

実生活において、国や自治体からの書類などが英訳されておらず、不便を感じる。英語の携帯アプリなどの充実を行って、もっと住みやすいまちにしてほしい。

⑦西川・ナンシ委員

・テーマ案「国籍の違いに関らず、全ての市民が安心して暮らせ、その能力を十分発揮して活躍することができる多文化共生社会づくり」

テーマ選定理由

これから来日する外国人は日本を『働き、生活していく場所』として考えている人が増えていくと思われます。定住化・永住化に伴い自国の文化と異なる環境で生活する事により彼らの抱える家族や生活問題は複雑化・多様化・深刻化していく事が予想されます。

学校適応困難、親子のコミュニケーションギャップ、生活困窮者、離婚、失業、言葉の壁や日本の社会制度への知識不足などで公的支援にたどり着けない者など、、、

解決策

- ・ これまで行われてきた日本語教育支援や単発の多言語による生活情報提供に加え、
- ・ やさしい日本語の普及
- ・ 異なる文化的背景を持つ人に対する専門知識を持った『多文化ソーシャルワーカー』の支援
(相談から問題の解決までの継続的に支援が行える人材の育成)
- ・ 本人だけではなく、その人を取り巻く家族、コミュニティ、行政機関との連携や協力
(地域の様々な国際交流団体の情報共有をする事によって選択肢を増やす)
- ・ 外国人が主体的に自分の能力を発揮し活躍できる場の提供
(相談窓口を兼ねた： 多文化 CAFE ← 外国人や地域の人が自由に立ち寄れる)

⑧ヒューズ・リアンダー委員

- ・ テーマ案1「外国人に魅力のある観光都市」
- ・ テーマ案2「外国人の保護者に配慮した学校での取組み」
- ・ テーマ案3「外国人にわかりやすい防災・災害対応」

テーマ選定理由

テーマ案1：観光

①さいたま市ナイトマーケット案

さいたま市は山も海もないし、特に目立った観光はない。そんなさいたま市で他の市と対抗しても無理がある。そこで、提案がナイトマーケットのようなものをつくるのはどうだろうか。例えば：タイやハワイのナイトマーケット、九州の屋台村など。 埼玉県の食文化（冷や汁、うどん、焼き鳥みそだれ、フライなど）やお土産、雑貨店などを集める。これから日本の夏はさらに暑くなることが予想されるので、夜、散歩がてらナイトマーケットのようなものが出来ると、さいたま市としての魅力度が上がる気がする。

②岩槻に城を建てる

例えば小田原城のような感じ。中途半場な城だと、ただの税金の無駄遣いになる（行田の城みたいな）になるので、作るなら大きい城を作るといい。外国人は意外と好きだと思う。

テーマ案2：学校

学校からくる書類が日本語で分からない。何が大事な書類で、大事じゃないのか分からない。提出しないといけない書類を見逃したり、記入方法が違っていただけで、子供が先生に怒られてしまった。先生も子供に怒らないで、親に連絡をしてほしい。学校の書類のペーパーレス、ネット化を進めてほしい。英語が通じる職員を一人置いてほしい。子供に対する対応も大事だが、親に

対応できる職員を学校に一人配置してほしい。

テーマ案3：防災・災害

去年の台風の時、「命を守る行動を」ばかり、アナウンスしていて、何をしたいのか、どこに行きたいのか、避難所がどこなのか、分からなかった。防災無線も日本語だし、何を言っているのか理解できなかった。携帯電話のメールに届くメッセージも日本語なので、英語で送ってほしい。

⑨ライ・ウダラ委員

- ・テーマ案1「働きやすさについて」
- ・テーマ案2「外国人家族に対する日本語の教育の支援について」
- ・テーマ案3「住みやすさについて」
- ・テーマ案4「日本人と外国人の相互理解について」

テーマ選定理由

テーマ案1：働きやすさについて

①2010年国勢調査のデータを見ると、さいたま市の産業分類は「その他のサービス業」が37.3%を占めており、サービス業の会社から外国人を雇うツールに繋がるよう、「さいたま市サービス業、外国人働きやすい集会／検討会」を実施するのはどうか？そうすることで、在住外国人の方が、職が見つからない、自己能力、特技を發揮できる仕事が見つからないといったことを回避できるのではないかと思います。また、市としてそうした企業と情報を共有し、雇用に繋げてもらうといったことや、外国人に対して就業に繋がる知識やトレーニングを提供する必要があります。（職業紹介ではなく、あくまでも場を作るという役割を果たすことが重要であると思います）

コロナの影響によって、就職も困難な状況であるが、さいたま市に「外国人の働きやすさ」を率先して取り組んでいただけると嬉しく思います。

②さいたま市内もしくは周辺に拠点を置いている企業と連携し、外国人が興味を持つ企業へ応募できるように、橋渡しを行ってほしい。企業が求めている外国人、外国人が求めている企業を知ることで、今後の働きやすさにもつながると思います。日経や海外コンサルティング会社ではなく、エージェント・コンサルタント会社を使わない会社や、高い人材紹介手数料を払うことができない、中小企業に視点を置き、必要な情報を伝えあえることが、双方にとってプラスになると思います。

テーマ案2：外国人家族に対する日本語の教育の支援について

日本に住む外国人が、どれだけ周りの日本人と問題なく交流やコミュニケーションが図ることができるのでしょうか？さいたま市は、来日した外国人に対して、日本語のボランティア教室や、無料授業などを提供してきたことと思います。ただし、どのくらい日本語が上達したのでしょうか？

案として、漢字圏の出身以外の方が、日本語を習得できるよう、日本語テストを行ってもらい、モチベーションを上げるために、日本語テストを受けて、1年以内に点数があがったら、500 円の商品券を差し上げるなどといった方法はどうか？外国人が日本語を学ぶ支援や、モチベーションが上がる方法を提供することも重要であると思います。

②土橋・アウロラ委員

・テーマ案「コミュニケーションと子どもの教育」

テーマ選定理由

子どもがいる外国人の親は、言語の壁があるため、学校で子どもがどのようなことが起こっているのか理解ができないため、多言語での情報共有をしてほしい。

議題2「委員長の選任について」

賛成 10

反対 0

第2回委員会の意見内容について

令和2年12月8日（火）～12月22日（火）まで開催した、「第4期さいたま市外国人市民委員会 第2回委員会」の会議録について、以下のとおりである。

1 第4期さいたま市外国人市民委員会の議題について

事務局案

国籍の違いに関わらず、すべての市民が安心して、住み続けたい魅力ある街づくりに向けて
(1) 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について
(2) 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組みについて

賛成：8

反対：0

※2名不参加

2 議題案を実現するための課題、解決策について

(1) 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について

課題：学校の英語書類（リアンダー・ヒューズ）

解決策：学校に英語対応が出来るスタッフを一人配置する。その人が英語の書類をつくる。予算的に難しければ、今は無料の翻訳サイトもあるので、メールでもらえれば、外国人でも翻訳できると思う。もともと、学校の手紙に不要なものが多いので、なんの書類が本当に必要なものなのかが、分かりにくい。そこは教育委員会や学校が決めて、なるべく書類を少なくする努力をしてほしい。そうすれば、本当に必要な書類が分かりやすくなると思う。

課題：PTA 役員（リアンダー・ヒューズ）

解決策：どうしても日本語が出来ない外国人は簡単な仕事（草むしりなど）をするなど、PTAの仕事とは何かという説明書類を英語で作成してもらおう。日本人の保護者と業務で不平等感がないようにしないと本当の親睦は生まれません。

PTAの役員ができないなら、学校のイベントとかで自国の文化を紹介するイベントを企画して、日本人保護者とのコミュニケーションや文化を理解する機会を持つ努力をする。

外国人側も日本語が分からないなどを言い訳にしているのは、日本社会に溶け込むことは難しいと思う。外国人が多い学校では、英語スタッフを配置してこうしたことを外国人に説明して、理解してもらおう。

課題：学校生活におけるいじめの問題（林 景禧）

解決策：学校という教育現場にいる教員に異文化理解のための教育を行い、外国人が日本社会で生活する事がどれほど大変か理解してもらおう。また、その様な教育を受けた教員が学校生活の中で子供達に対して学んだ事を実践する。また、教員が実践出来ているかを確認出来るような仕組みを作る。

課題：日本人生徒の保護者と外国人生徒の保護者間の交流不足（林 景愷）

解決策：日本人生徒の保護者と外国人生徒の保護者それぞれから PTA の理事を選出し、お互いに協力しながら PTA 活動を推進する事で自然な交流を図れる仕組みを作る。

課題：日本語を学ぶ場の提供（西川ナンシ）

解決策：放課後の学校で地域に住む外国人向けの講座を行うなど、通いやすい身近な場所で日本語を学ぶことで、その地域に住む人どうしのコミュニケーションの場にもなる。学校は各地域に必ずあり、場所の認知度が高く身近で通いやすい。子供も親も気軽に通うことができ、日本語だけでなく、生活に必要なルールや情報を学ぶことができ、夕方に講座を行えば大人も通いやすいと思う。

課題：生活、仕事、学校、子育て、災害などの場面において、活用できるレベルの日本語の習得と定着（西川ナンシ）

解決策：日本語の講座の内容も生活に密着した内容で進める必要があります。その人の生活の中で必要な内容を自分で選択できるやり方があって良いと思います。ただ言葉を覚えるだけ、文字を作業的に覚えるのではなく、実践的に使えるように内容を分割して自分で講座を選んで通うのもやりがいにつながっていきます。

課題：ネット上での講座（西川ナンシ）

日本語の講座内容を簡単にまとめたものをネットで見るのができたら便利であると思います。

課題：解決の方法を案内できる人が必要（西川ナンシ）

解決策：学校に通う生徒や親のサポートとして日本語指導員の派遣回数を増やしたり、問題の解決方法の案内ができるコーディネーターやソーシャルワーカー、講師などの派遣があるとより良い環境になると思います。生活する人に寄り添うケアが大切です。

課題：外国人の先生、日本語の先生の配置、経済的に困難な子どもへの支援（ラ・コウ）

解決策：学校で、母国語が話せる先生をつける。子どもの成長状況を常に把握する。

専門の日本語先生を設置する。子どもは日本語ができたなら、生活も楽になる。

経済困難の子どもに教材費等を免除する。不登校を 0 にする。

課題：外国人の子どもたちを支援するのであれば、まず着手すべきと思うことは、外国人のご家族、子どもがおかれている状況はいつもどんな状況なのか、把握すべきであると思います。特に出身国が宗教などの理由で、日常生活習慣、飲食が普通の日本人と合わない外国人の子どもたちは、最初から力を入れる必要があります。（ライ・ウダラ）

解決策：子どもの状況を通じて、外国人の家庭とつながりを作ることで、日常生活の中で、この家庭がいつもどんな所に問題が発生しているのか、理解、把握できると思います。具体的な支援策としては、学校で、外国人の子どもが飲食できる、小量特別ランチメニューを提供する（例えば対象がイスラム系の家庭の子どもで豚肉が食べられない場合）。現地の生活習慣を積極的に理解できる非常勤講師を配置する（他国生活習慣をよく知っている非常勤先生がいることで、外国人が普段相談しにくいことがあれば、随時コミュニケーションを取ることができる）。

課題：日本語支援（イ・ユジン）

解決策：日常生活のための日本語を含め幅広い分野の日本語支援が必要だと思います。学校へいる間も可能であれば放課後に日本語で学校教育を受けられるように補助や支援があるとありがたいです。学校だけでなく家庭、保護者の方が日本語に困ると子供にも影響があり、不登校や心の悩みなどいろんな問題が起こる可能性もあります。子供の進学、三者面談など保護者が関する学校行事も多いので、学校と家庭がちゃんとつながるようなシステムがあるといいと思います。学校のHPとかに短い英語でも案内を出すとか、学校に提出する書類の書き方の例があれば助かります。

課題：外国人への差別（イ・ユジン）

解決策：差別を減らすために多文化、異文化を持っている人々を理解して彼らと一緒に歩む内容の資料とかを授業を学校で行うことは可能でしょうか。

課題：子育てをしており、もうすぐ小学校に入学します。今はコロナ感染予防のために、こどもたちは咳が出ているだけで学校を休まなければなりません。その場合親も休みを取らなければなりません。年休が足りない場合など、とても困っています。外国人として、自分の家族もいないので、身近に預けられるところがなく困っています。（里村オアナジョルジアナ）

解決策：預けられる場所があればとても助かります。

（２）外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組みについて

課題：ナイトマーケット、イルミネーション（リアンダー・ヒューズ）

解決策：ナイトマーケット案に関しては前回提案した通りです。それに追加して、冬はイルミネーションの街など、分かりやすいネーミングをつけて、大規模なイルミネーション（東京でやっているような感じ）を町中で行う。さいたま新都心のイルミネーションレベルでは、都内や県外から観光としてさいたま市に来ないと思う。

課題：文化体験（リアンダー・ヒューズ）

解決策：観光地としては、さいたま市は何もないので、文化体験ができる町として外国人に発信する。さいたま市に行けば、「なんでも日本文化は体験できる」というキャッチコピーを作る。文化体験で、生け花、着物、茶道、書道、座禅、料理教室、陶芸、そば打ち、盆栽など、日本人の先生が各自で日本人向けに行っている教室はあるかと思いますが、そこを外国人観光客にも周知したり、協力してくれる教室を見つけて、情報を１つにまとめたウェブサイトや案内所を作る。文化体験をした外国人はさいたま市のホテルやレストランを割引価格で提供する。タクシーとセットプランなど、色々パッケージプランはあってもいいと思います。

課題：さいたま市を楽しい思い出を作る場所にする。限られた観光資源を引き立たせる。もっと見たくなる案内を行う。（西川ナンシ）

解決策：行った場所で出会った人や体験したことはすてきな思い出になり、またその思い出はその場所のイメージにつながると思います。素敵な場所に行ったり、美味しいものを食べたり、地域にちなんだものを作ったり、みんなでイベントに参加したり、ホームステイしたり、埼玉県やさいたま市に来た観光客は何をみて、あるいは何がきっかけで来てくれているのでしょうか？私からの提案は次の

場所に行きたくなるしかけをいろんな場所に置くことです。観光地のルート案内も良いですが、行った先で次の場所に行きたくなるきっかけになる工夫が必要だと思います。

課題：日本の経済において、観光収入は重要な要素となっています。外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取り込みが、高齢、中年、青少年に三段階で切り分けて中年、青少年向けの誘致について、ディスカッションしたいと思います。（ライ・ウダラ）

解決策：訪日外国人（学校間交換プログラム）学生、青少年向け、地域限定クーポンを作成、配布する。（配布ルートは、学校法人通して実行することが可能だと思います）。但し、クーポンを配布後、単なる消費の促進ではなく、地域につながる活動に参加する前提で、クーポンを使うこと。

例えば、さいたま市岩槻区で農産品、農園などの労働体験してもらい、体験イベント終了後、クーポンを使うことで、2,000円の農産品を実質70%オフで購入できる仕組み。青少年が自身の労働を通じ、さいたま市の魅力を改めて体験、学習し、さらにリワードも受けることができ、一石二鳥的な効果を最大限で達成する。青少年が外国人に当てはまる場合、日本で体験した素晴らしい経験を活かし、のちにもっと良い繋がりを作ることができるかもしれません。

課題：世界への発信、コンベンション・イベントの誘致、文化・伝統の発信（オウ・ライ）

解決策：さいたま市の有名の観光地をSNSで世界の人々に発信する。国際コンベンション・イベントの誘致を行う。さいたま市の地の利を生かし、さいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム2002など市内に立地する施設の連携と有効利用を図り、さいたま市に適した国際コンベンション・イベントの誘致・開催を推進します。日本漫画文化、伝統産業である岩槻の人形、大宮の盆栽、浦和のうなぎなど、海外にも通用する様々な地域資源を有しており、それらを積極的に活用することで、海外からの観光客を誘致します。

課題：さいたま市は東京から近い立地にも関わらず、観光に来る方は少ないと思います。私が感じたことだと、シンボル、ランドマークになる場所や建物が少ないし、ベッドタウンのイメージが強いです。（イ・ユジン）

解決策：大宮駅は新幹線が通る駅で、近くには氷川神社や鉄道博物館もあるので、駅を利用する人も多いと思います。駅の近くに楽しめる事があると、きっと電車から降りて観光する人も増えるでしょう。大宮駅から氷川神社までの道に、カフェ街、レストラン街、買い物街のように店を並べて観光地区みたいに設計するのはどうでしょうか。お店の情報が掲載されたマップ入りの冊子を駅に置くと宣伝の効果もあると思います。お店と駅、氷川神社を結んだイベント（スタンプラリーとか買い物のクーポン券）を開催すると日帰り感覚で、気軽に観光しに来る人も増えると思います。

第3回委員会の意見内容について

1 第4期さいたま市外国人市民委員会の議題

国籍の違いに関わらず、すべての市民が安心して、住み続けたい魅力ある街づくりに向けて
(1) 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について
(2) 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組みについて

2 議題案を実現するための課題、解決策について

(1) 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について

① 日本語の支援をしてほしい

意見・具体的な方法：

- ・放課後に1時間ぐらい大学生のメンターとか、ボランティアさんと連携して日本語のレッスンを行ったり、宿題を手伝ったりしてくれると子供が持つ日本語の悩みは少しずつ解決できると思います。(イユジン)
- ・子どもは大人より日本語を学ぶ機会や時間が多いと思うので、大人向けのレッスンが常に可能になる環境になってほしいです。このためには職場からの支援や地域でサポートしてくれるプログラムがあると役に立つと思います。できればオンラインレッスンを行ってほしいです。(イユジン)
- ・各学校に専門クラスを設置するのが、理想かもしれないが、予算の関係で難しいかもしれないので、地域に一校ぐらいにまとめて、日本語専門学校を作り、そこで日本語を学ぶ。ある程度のレベルに達したところで、日本の公立学校に行く。日本語専門学校では日本の文化や、保護者に対してもアドバイスなどしても良いと思う。どのレベルに達すれば、公立学校に行けるか(例えば、N1レベルなど)の基準は教育委員会と検討するのが良いと思う。(リアンダー・ヒューズ)
- ・外国人の子供の日本語支援については、放課後に補修授業の時間を使い教える。外国人保護者の日本語支援については、平日夜間、土日などの時間に公民館や市の施設を活用して教室を開校するなどの方法が考えられる。カリキュラムについては、日本語が全く話せない人にはスピーキング中心、ある程度話せる人には読み書き中心のカリキュラムを組みレベル毎にクラス分けを行う。(リム・キョンヒ)
- ・ボランティアのクラス以外に、市役所による一対一のビデオクラスができれば実施してはどうでしょうか？(ライ・ウダラ)
- ・定期的に日本語教室を開催する。一週間に一回か、二週間に一回の日本語教室をやって、丁寧な日本語指導を貰えば、外国人の学生さんたちは日本の生活に早く慣れる。(オウ・ライ)
- ・外国人が多い学校に、母国語と日本語が両方わかる先生を配置してほしい。週1~2回に彼らに教える。(ラ・コウ)
- ・日本語習得を手助けする日本語の指導員の学校訪問の回数を生徒のレベルに応じて増やす事。学校以外でも集まって勉強できる身近な場所を作ること。親子で参加する日本語弁論大会を開催して、親子で力を合わせて日本文化や日本語の勉強をするモチベーションをあげるイベントをやってみるのも面白いでしょう。(西川・ナンシ)
- ・さいたま市には日本人のボランティアで、それぞれの国の言語を話せる方がいると思いますので、

その方達を活用して、支援を受けるのが良い。また、日本語がよくわからない保護者や生徒がアクセス／コンタクトできる場を作ることや、WEB会議などを使って、オンデマンドでコンタクトできる環境を作ると良い。(ゴンザレス・アドリアナ)

② 学校での書類を多言語にしてほしい

意見・具体的な方法：

- ・提出書類の例を英語か、地域で多く使われる言語で記載して必要な方に配布する。また、表は日本語、裏は英語、外国語といったようにする。(イユジン)
- ・今は翻訳サイトやアプリなども豊富なので、まずは書類をメールで送付する。必ず、提出が必要なものなどは、メールのタイトルを分かりやすい日本語、または英語でその旨を伝え、送付をする。(リアンダー・ヒューズ)
- ・それぞれの言語に合わせて書類を多言語化する。(リム・キョンヒ)
- ・学校の書類を多言語に対応するため、膨大な翻訳作業など発生します。できたら、もっと電子書籍の形で、多言語での形で対応したらどうでしょうか？ デジタルでの対応で翻訳作業が終われば、データのみで誤字などの訂正やアップデートができます。(ライ・ウダラ)
- ・よく使われる通知文などを、外国語に翻訳する。専門の人に頼む。(ラ・コウ)
- ・英語の書類を作成してほしい。(里村 オアナ・ジョルジアナ)
- ・単語レベルでの添え書きが少しでもあると助かると思います。(西川・ナンシ)
- ・さいたま市が翻訳システムを購入するか、クラウドサービスを利用して、翻訳文書を提供することも考慮して欲しい。

③ PTA への参加

意見・具体的な方法：

- ・外国人で日本語が分からないという理由で役員を免除するという事は、あってはならないので、日本の公立学校がなぜ役員というものがあるのか、まず、そこを説明する必要があると思います。(リアンダー・ヒューズ)
- ・PTA 活動に参加できない外国人は日本の社会で溶け込みにくかったり、またこの役員活動が自分たちの子供の環境を良くするという自覚をもって行うことが大事である旨を、英語や簡単な日本語で説明する。※本人の親でも役員は簡単な仕事をしたい、出来ればやりたくないと思っている人は多いので、この文化に関しては外国人であっても理解する必要があると思います。(リアンダー・ヒューズ)
- ・①で提案した日本語専門学校に自身の子供が通っているときに、そこで外国人保護者もこの役員会の活動について、この学校で説明を受ける。日本の公立学校に行った時に、「知りませんでした」ということがないようにする。各学校で役員会のあり方など多少異なると思うので、この日本語専門学校で各学校の役員会説明資料を用意して、外国人が行く予定の公立学校の資料を渡す。役員会でのトラブルや質問など、ここの職員が間に入っても良いかもしれません。(リアンダー・ヒューズ)
- ・全体の PTA 以外に、外国人の家庭のみを対象とした PTA の時間枠を設ける等の環境作りが考えられる。(リム・キョンヒ)
- ・多言語で説明書類を作成する。地域の外国人に配布する。説明会を行って、その場で参加しても

らう。(オウ・ライ)

- ・外国人生徒の保護者も PTA の理事を、お互いに協力しながら PTA 活動を推進する事で自然な交流を図れる仕組みを作る。(ラ・コウ)
- ・事前に話し合う内容の資料を外国人に提供しておく。資料は翻訳システムを使って準備する。(ゴンザレス・アドリアナ)

④ サポート役（コーディネーター）の配置

意見・具体的な方法：

- ・本当なら各公立学校にサポート職員がいるのがいいと思うが、無理な場合は①や③で回答した日本語専門学校に配置するのが良いと思う。この場合、もし子供達がこの学校を卒業しても、その後もフォローをするという意味で各公立学校と密に連携を取れる環境をつくるのが大切だと思います。このコーディネーターが外国人保護者向けのガイダンス（例えば PTA 活動についての説明など）を行う。(リアンダー・ヒューズ)
- ・書類の多言語化同様、それぞれの母国語に対応出来るサポート役の配置を行う事は大切だと思う。ただし、各学校に配置することは現実的でないため、市の中でいくつかの場所を設けながら配置していくなどの工夫が必要になると思う。(リム・キョンヒ)
- ・市役所でコーディネーターを設置するのは、勤務地が限定されてしまう可能性があります。例えば、電話でいつでも連絡できるコーディネーターを設置することで、コーディネーターの方々が自由に自分の時間をコントロールできる、かつサポートが必要の方々へ、支援できるかもしれません。(ライ・ウダラ)
- ・心理の専門の先生を配置する。心理、生活、学習について、たくさんのアドバイスをあげる人がいれば、学生さんたちも安心する。(オウ・ライ)
- ・学校の中で、サポートを配置する。外国人子どもが何かわからないときは、すぐ対応できる。(ラ・コウ)
- ・ぜひ配置をしてほしい。日本で暮らす外国人の気持ちが理解できる人がいい。(里村 オアナ・ジョルジアナ)
- ・その人の置かれている状況を把握し、状況を改善させるために必要な物や場所をマッチングできるサポート役が必要だと思います。情報を知ると知らないではその人の生活が大きく変わってしまいます。自分と同じ境遇の人が集まるコミュニティの紹介や、学校生活に必要な学習ができる場所の紹介、学校生活や日本での生活で困った事を相談できる場所の案内、そして将来の可能性を見出す手助け、学費や進路の相談など、日本語の指導員以外に生徒やその親にアドバイスできるサポート役の人の学校訪問があってもいいと思います。(西川・ナンシ)
- ・WEB 会議の活用を行う。(ゴンザレス・アドリアナ)

⑤ いじめ、差別への対応

意見・具体的な方法：

- ・外国語で対応できるカウンセラーを紹介してくれると起きた問題に対して解決にたどりつけると思います。学校内の相談室で対応が難しい場合、市や教育委員会に相談窓口みたいなところを設置してほしいです。(イユジン)
- ・学校の道徳の時間などで指導をする。(リアンダー・ヒューズ)

- ・ 道徳の時間の時間等に具多的な事例を交えて、児童に啓蒙していく。また、それを行う、教員に対しても市の教育委員会等が中心となって教員への啓蒙活動を行う事、等が考えられる。(リム・キョンヒ)
- ・ 方法や視点もさまざま、難しいですが、小中学校の国際化の発展として、違う価値観、習慣、人種へ認め、友情を作ることが必要だと思います。(ライ・ウダラ)
- ・ 学生さんたちの状況を把握するために、定期的に相談会を行って、心理と身体の健康を保持する。また、外国人のボランティアを募集して、日本人の学生に外国のことを話せる。お互いの理解をしてもらって、いじめと差別を減少する。(オウ・ライ)
- ・ いじめや差別を受けた経験のある教員が、子供達に対して学んだ事を伝える。(ラ・コウ)
- ・ 日本ででの生活に馴染めない原因の多くがいじめや差別にあると思います。日本で生活していくにはもちろん日本の社会、すなわち子供の世界でいうと『学校』の環境に適応する事が必要になります。しかしその子供の性格やクラスメートの雰囲気によっては、そう簡単な物ではないのも私は理解できます。日頃から何かができない人をサポートする雰囲気づくりがクラスの中で必要です。雰囲気の違う子供を孤立させない工夫、そして心が傷ついてしまった子供へのケアも大事だと思います。日本語教室や地域の集まりで自分と同じ境遇の仲間を知るのもその一つの方法です。得意分野を伸ばして自信をつけさせるのも一つの方法だと思います。国際交流や国際理解の授業を行う際、美しい観光地やお祭りの紹介、文化の違いを際立たせるやり方をする事があると思いますが、外国から来る外国人は観光客だけではない事、日本に残って生活する外国人もいるという事、そしてそんな社会で一緒に生きていくには何が必要で、自分に何ができるのかを子供たちに考えさせる時間を持つのも大事だと思います。(西川・ナンシ)
- ・ 思いやり教育の充実と指導を行う。海外の学校とのオンライン会議をしての児童の交流を進めて、多様性について身をもって感じてもらう。(ゴンザレス・アドリアナ)

⑥ その他

前回皆さまから「学校生活」における支援について意見を多くいただきましたが、「子育て」についても意見を伺えればと思います。子育てに関する課題とその解決策について、意見を書いてください。

意見・具体的な方法：

- ・ 中学校では受験の為、多くの学生が塾に通って、そこで受験の情報を仕入れていると聞きました。外国人の親にとっては、塾は負担が多いし、この時点で日本人と外国人の差が生まれている気がする。受験のシステムを変えるのは難しいが、外国人でも分かる、受験の情報を教えてほしい。(リアンダー・ヒューズ)
- ・ 外国人家庭のための子育てサークルを作り、同じ境遇の外国人同士が積極的に交流できる場を設ける事が大切ではないかと思います。(リム・キョンヒ)
- ・ 親子両方をコミュニティーへ受け入れること、市役所から外国人お母さんへ応援プログラムの立ち上げなどを行って、周りの親を巻き込む。(ライ・ウダラ)
- ・ 外国人を集まるイベントを行って、お互いに情報共有する。周りにどんな外国人の方がいるか、皆興味を持っていると思う。(オウ・ライ)
- ・ 日本のママとパパたちと外国人のママ・パパたちの意見や知りたい情報を共有できるサービスを作る。これからもっと増える外国人の子供達、家族が日本の生活への混乱を減らせるように育児の段階からちゃんとした話をする必要があると思います。(ラ・コウ)
- ・ 来日される年齢によって必要とするサポートの内容が変わってくると思います。幼い頃なら日本語を話すレベルを習得すれば学校での生活に馴染むスピードを早めることができます。また受験を向かえる年齢でしたら、文字を書く事や長文の読解そして文書で表現できる能力も求められてくると思い

ます。その生徒一人一人の性格や状況を見極めて必要な対応をする事が大事です。もしかしたら、日本語を言語として教える人と教科の内容を説明する人の使い分けが必要かもしれません。(西川・ナンシ)

・住んでいる国の習慣を理解して、困った時があったら、助けを求め、助けをありがたく受入れてくれると嬉しい。(ゴンザレス・アドリアナ)

(2) 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組みについて

① 文化体験の紹介(生け花、着物、茶道、書道、座禅、料理教室、陶芸、そば打ち、盆栽など)

を外国人向けに行っている教室をまとめて掲載したウェブサイトや案内所を作してほしい

意見・具体的な方法:

・WEBサイトの開設や観光客が体験して楽しめるような施設の開設があるとよいのではないのでしょうか。(リム・キョンヒ)

・ウェブサイト作成していても、有効かつ迅速に伝えないと、外国人も分からないと思います。(ライ・ウダラ)

・外国人も参加できる文化体験の教室の情報を収集して、パンフレットを作って、大宮駅または浦和駅の近くで、案内所を設置して、地元の外国人住民や外国観光客に向けて、情報を伝えます。また、ホテルやレストランの割引券も一緒に提供する。タクシーとセットプランなど、色々パッケージプランはあってもいいと思う。(オウ・ライ)

・外国人向けの文化センターを作る。定期的にイベントを行う。(ラ・コウ)

② ナイトマーケット、イルミネーションを実施してほしい

意見・具体的な方法:

・イルミネーションは浦和とか新都心にあるので大丈夫だと思います。ナイトマーケットは大きい広場とかスタジアムを借りて行うことが可能だと思います。開催方法等については、さいたま新都心で行っているビールフェスティバルなどを参考にするのもいい方法でしょう。(イユジン)

・駅から離れていると観光客が来ないので、駅の近くで空いている土地(例えば埼京線の高架下など)に屋台や雑貨、カフェなどを誘致する。埼京線の辺りは川などもあるので、少し河川工事をし、日本らしさがある風情として例えば「川下り」を売りにするのもよいと思う。イルミネーションとは少し違うが、ベトナムのホイヤンのように、川と屋台を活かして、ランタンでイルミネーションをするとアジアな風情が出ると思う。(リアンダー・ヒューズ)

・イルミネーションは今でも浦和駅やさいたま新都心駅周辺は少しだけ行っているが、もっと町全体として、イルミネーションの街とかにしても良いと思う。各家庭、商店やお店など、イルミネーションをしているお店には補助金を付けるとか。県庁に東京ミレナリオのようなものをつくる。(リアンダー・ヒューズ)

・大人と子供を交えての交流が大切になるといいますので、ナイトマーケットだけでなく週末の日中に交流が出来るようなマーケット等の場を設ける事も必要だと思います。(リム・キョンヒ)

・ナイトマーケットについては賛成しません。(ライ・ウダラ)

・新都心駅のイルミネーションは結構きれいに、よく利用すれば、音楽のまつりや夏祭りや手踊やナイトマーケットなど行ったら、みんなが喜ぶと思う。(オウ・ライ)

・大宮駅周辺、浦和駅周辺で屋台村を設置する。埼玉の名物を販売する。(ラ・コウ)

・興味があります。このようなイベントがあったらスタッフとして働いてみたい。(里村 オアナ・ジョルジアナ)

③ 地域につながる活動に参加する前提で、外国人向けの地域限定クーポンを作成、配布してほしい

意見・具体的な方法：

- ・地元の食事やお土産などを紹介して、クーポンが使用できるといいと思います。(リアンダー・ヒューズ)
- ・クーポンは市の税金を財源にした現金給付のような性質ですので、公平性の観点から外国人のみを対象としたクーポンの配布には違和感があります。(リム・キョンヒ)
- ・クーポン作成について賛成します。ただし効果がないクーポンを作らないように注意すべきだと思います。例えば、外国人市民活動へ一度アンケートを回答することを条件に、500円のクーポンを差し上げるなどをすると良いと思います。(ライ・ウダラ)
- ・外国人市民に自治会に参加してもらい、参加する市民に地域クーポン配布する。(オウ・ライ)
- ・各自治会に配布し、自治会から本人に配布する。(ラ・コウ)
- ・高齢者向けの支援は充実していますので、それと類似のサービスを提供して頂けるのは嬉しいと思います。特に頑張っている留学生にとっては助かると思います。(ゴンザレス・アドリアナ)

④ コンベンション・イベントの誘致をしてほしい

意見・具体的な方法：

- ・さいたま市にある大型施設を利用して、大きいイベントを誘致する。漫画、食文化、伝統芸能など。(リアンダー・ヒューズ)
- ・①に関連するようなコンベンションやイベントの開催などしてみたいはいかがでしょうか？(リム・キョンヒ)
- ・さいたま市が持っている資源を生かし、さいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム 2002 などの施設と連携して、国際的なコンベンション・イベントの誘致・開催を推進する。日本の漫画文化、岩槻の人形、大宮の盆栽、浦和のうなぎなどを中心に、様々なイベントを行って、参加者の体験や感想を聞いて、テレビとかでもっと多くの人に発信して、観光客を集められると思う。(オウ・ライ)
- ・さいたま市の有名な観光地を SNS で世界の人々に発信する。国際コンベンション・イベントの誘致を行う。さいたま市の地の利を生かし、さいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム 2002 など市内に立地する施設の連携と有効利用を図り、さいたま市に適した国際コンベンション・イベントの誘致・開催を推進する。(ラ・コウ)

⑤ SNS、情報を1つにまとめたウェブサイトで情報発信をしてほしい

意見・具体的な方法：

- ・今現在その方向で市の方も動いていると思いますので、引き続き各種情報をまとめて発信されるとよいと思います。(リム・キョンヒ)
- ・さいたま市の市報モバイル版を作ったりするなどを検討して良いのではなかと思います。(ライ・ウ)

ダラ)

- ・観光専用のウェブサイトを作って、観光地の紹介はもちろんある。そのほか、多言語で住民や観光客の体験感想も追加します。Facebook などの SNS のリンクとつながって、最新のイベント情報を確認できるように作る。(オウ・ライ)
- ・さいたま市の有名な観光地を紹介する専用の SNS 作り、世界の人々に発信する。(ラ・コウ)

⑥ 大宮駅から氷川神社までを中心とし、まち歩きを中心とした観光プロモーションをしてほしい
意見・具体的な方法：

- ・①の文化紹介等を交えたまち歩きのプロモーションを行うとよいと思います。(リム・キョンヒ)
- ・神社を中心に観光プロモーションをすることは賛成しません。(ライ・ウダラ)
- ・カフェ、レストラン、ファッション、伝統工芸の店、博物館など、観光地でよくある店を設置して、周りの住民の協力をしてもらって、まつりとか、伝統文化の体験会とかを行って、にぎやかな街を作りましょう。(オウ・ライ)
- ・大宮駅から氷川神社までの道に、カフェ街、レストラン街、買い物街のように店を並べて観光地区みたいに設計する。(ラ・コウ)

⑦ その他

2020 年に作成した、多言語の観光情報のホームページ（さいたま観光国際協会）について、意見を頂ければ幸いです。

URL: <https://www.stib.jp/saitamacity-visitorsguide/>

(1) 良い点：

- ・さいたま市の観光スポットが理解できた。(リアンダー・ヒューズ)
- ・内容が充実していてとても素晴らしいと思います。(リム・キョンヒ)
- ・わかりやすく、非常に良いと思います。(ライ・ウダラ)
- ・とても親切で、わかりやすく説明してあると思います。(オウ・ライ)
- ・色々の方面からさいたま市を紹介してくれていて、とてもわかりやすいです。(ラ・コウ)
- ・エリアごとに分けられていて、わかりやすい。(里村 オアナ・ジョルジアナ)
- ・動画で場所の様子が見られる事がとても良いと思いました。動画なら日本語、英語、中国語を話す方以外であったとしても、動画を見るだけで雰囲気を楽しむ事ができますね。しかも説明が長すぎずいい塩梅にまとめられているのも良い感じです。特に Ofurocafe Utatane の紹介が私のお気に入りです。さいたま市の観光地の一つの難点は一つの場所での滞在時間が短い事だと思っています。小江戸のような町全体がテーマパーク化している場所でしたら半日費やす事ができますが、テーマパークではない場所には次の観光地へのつながりが必要だと思っていましたので、色んな場所をめぐるルートが載っているのもとても良いと思いました。私が Ofurocafe Utatane の紹介を見て一度行ってみたいと思ったように、ホームページを見た人が行きたくなるような内容になっている事が大事だと思います。(西川・ナンシ)
- ・とても充実していると思います。(ゴンザレス・アドリアナ)

(2) 改善する点：

- ・分かりやすいページで良かったですが、記載されてある情報は足りないなと思います。日本語のページと英語のページを比べてみると英語の方では書かれていなかったり情報が少ないなと思い

ます。(イユジン)

- ・予約の段階まで出来ると、素晴らしいサイトになると思う。このサイトを見れば、すべてが完結すると、旅行客も分かりやすいと思う。そのためには、民間の協力も必要になると思う。(リアンダー・ヒューズ)
- ・時代とともに内容のアップデートの必要性も出てくると思いますので、時折、内容の見直しを行う事が必要になると思います。(リム・キョンヒ)
- ・各場所の紹介の下に、すぐ「行き方」ボタンを追加、東京駅からのルートを案内する。乗り換え案内の表示など。(ライ・ウダラ)
- ・多くの言語を増やしてもらえると嬉しいです。(オウ・ライ、ラ・コウ、ゴンザレス・アドリアナ)
- ・キャンセルされたイベントはWeb ページに載せなくてもよいと思います。(里村 オアナ・ジョルジアナ)
- ・内容が長くなり過ぎないように気を付ける必要があると思います。(西川・ナンシ)

また、さいたま市に住む外国人の方向けに、英語とやさしい日本語のホームページを作成しました。こちらは、生活情報を中心としています。意見を頂ければ幸いです。

英語版 URL : <https://www.city.saitama.jp/en/index.html>

やさしい日本語版 URL : <https://www.city.saitama.jp/jp/index.html>

(1) 良い点 :

- ・内容が分かりやすくよいと思います。(リム・キョンヒ)
- ・とても良いと思います。(ライ・ウダラ)
- ・とても親切で、わかりやすく説明してあると思います。(オウ・ライ)
- ・外国人がみたら、すぐわかる情報になっているので良いと思います。(ラ・コウ)
- ・簡単な言葉で書かれている事。短い単語と絵で分かりやすく表示されたアイコンから手続き方法や説明文につながっている事。(西川・ナンシ)
- ・とても分かりやすくなっていると思います。(ゴンザレス・アドリアナ)

(2) 改善する点 :

- ・一昨年の台風のようなものが来た時に、一番最初のトップページに「避難！」など、一発で危ないことがわかるようなサイトになっているといいと思います。(リアンダー・ヒューズ)
- ・外国人が参加できるイベントの情報をより増やしていくとよいと思います。(リム・キョンヒ)
- ・多くの言語を増やしてもらえると嬉しいです。(オウ・ライ、ラ・コウ、ゴンザレス・アドリアナ)
- ・時間が書かれている所が見難いと思います。数字の間に『時、分』などが挟まっているので読み方を入れていると思いますが、それではちょっと見難いです。スケジュール的な物は表で表しても良いと思いますがいかがですか？日本語があまり理解できない人に文字だらけの説明を見せるのは理解が難しいと思います。(西川・ナンシ)

第4回委員会の意見内容について

令和3年6月28日（月）～7月16日（金）まで開催した、「第4期さいたま市外国人市民委員会 第4回委員会」の会議録について、以下のとおりである。

1 第4期さいたま市外国人市民委員会の提言書への意見について

「1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について」

・「1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について」の項目にPTA活動の部分があんまり書いてない気がします。PTAの活動に関しては外国人が参加できるマニュアルがあったらいいと思います。外国人が出来ることを教えてあげるのが大事だと思います。

私も保育園のPTAに入ったことがありました。色んな仕事の中で外国人でも出来る仕事を私に優先的に割り当ててくれたので助かりました。他にも園児のために海外の文化を教える時間として韓国の子でも歌を紹介する活動もしました。（イユジン）

・書類の多言語化について

もちろん、多言語化の書類が作成できるのであればそれがベストかもしれないが、限りある財政の中、そこだけに力を入れるのは難しい気がする。まずは英語の資料を作成して、そこから問題点があれば、随時検討していく感じでよいと思います。

あと、今は自動翻訳システムもたくさんあるので、書類のIT化を早急に行い、各外国人が翻訳にかけられる形でも良いと思います。自動翻訳システムについてはさいたま市でおすすめのを外国人に提案する形をとる。（リアンダー・ヒューズ）

・子育て支援について

PTA活動については、学校に行く前にコーディネーター・さいたま市が英語の書類でもいいので説明をした方が良くと思います。コーディネーターに関しては、地域のボランティアや埼玉大学の学生にボランティア活動を集ってみるのもいいかもしれません。（リアンダー・ヒューズ）

・外国人が日本で子育てをする際、誰よりも頼りになるのは日本人の保護者だと思います。そのため、外国人と日本人の保護者が自然に交流出来る場（例：PTAの利用、ボランティア、等）をたくさん作ると良いと思います。この内容を追加すると良いと思います。（リム・キョンヒ）

・学校から配布される書類の多言語化、外国人の子どもをサポートしてくれる環境作りの二点が大切だと思います。学校で配布する書類、ドキュメントを多言語に変換するのはできるだけ急ぐ必要があります。長期的に日本に滞在する外国人家族だけではなく、さいたま市に来る駐在員家族、ワーキング家族で子供がいる場合は、自分の子供を預かる学校で英語もしくは国際言語の書類があれば、より国際都市のイメージが出るではないかと思います。（ライ・ウダラ）

・子育て家庭への支援

日本語支援：日本語の学習、支援について特にたくさんの方のところですでに行っています。これは

このままで継続すればよいと思います。価値が生まれるのは、これまでの対面授業より臨機応変に対応できるオンラインクラスにするのが良いかもしれません。(ライ・ウダラ)

・サポート役のコーディネーターの配置

これは非常に大切なことだと思います。コーディネーターと言っていますが、人選についてなるべく帰国子女のような方をお願いするのが良いと思います、その理由は、自分自身が昔海外で、外国人にもなったこと経験があり、外国人の立場で物事を考えることが可能だからです。人材確保の面で見ると、コストがかかる一面がありますが、ただしこれはコストかかっても行うべき項目だと思います。(ライ・ウダラ)

・児童館の利用を外国人へ普及しましょう。児童館を使う外国人が少ないイメージがあります。児童館をよく利用すれば、外国人の子育ても楽しくなれます。たとえば、木崎にある「あいぱれっと」では、たくさんのイベントがあって、相談窓口も設置しているので、いろいろ楽しいことができますと思います。(オウ・ライ)

・外国人が日本で生活するとき、様々な問題があります。外国人が初めて日本に来るとき、分からないことは沢山ありますが、一番困っているのは、日本語です。言語ができないと、生活は大変です。彼らへの支援が必要です。

まずは、学校の中で彼らに支援する必要があります。専門の日本語先生をつける。親の仕事の原因で、日本に来る子どもは沢山います。彼らは、初めて、外国に来て、不安は沢山あります。母国語ができる先生をつけて、いつも彼らに説明することができ、不安を消します。

もう一つのタイプは、さいたま市で仕事している人です。彼らは、技術を持っていますが、日本語はあまり話しません。彼らもとても困っていると思いますので、地域自治会で定期的に、日本語教室を開催する必要があります。彼らが教室で日本語と日本文化を学ぶことで、日本での生活がもっと楽しくなります。(ラ・コウ)

・日本語支援

日本での生活をより良いものにするには『分からない、出来ない、面白くない』のスパイラルから抜け出すことが大切であると思います。またその人の周りを取り巻く人たちとの人間関係が物事を大きく左右します。学校や職場、地域の人々とうまくコミュニケーションをとるには日本語を話せることが大切になってきます。学生には、放課後に授業の補修や日本語の習得ができる場、大人には日本語を覚えながら日本での生活に必要なルールや習慣が学べる場が必要です。文化理解は近隣の住民とのトラブルを防ぐ意味でも大切になってきます。また子供の場合は、年齢によっては必要な学習内容が変わってきます、日本語の習得レベルが本人の進路に大きな影響を及ぼすからです。そして自分と同じ境遇の仲間と会える事が勇気にもつながりますので学びの場や選択肢は多くあった方が良いでしょう。日本での生活が楽しいものになれば、いつかはさいたまに来てよかった！さいたま市に住んで良かったとつながって行くと思います。(西川ナンシ)

・学校からの情報提供の多言語化について

翻訳サイトやアプリの活用の案、とても良いと思います。現場にいる先生方やスタッフに多言語での対応ができる限度があるかと思いますが。その時に備えて、コミュニケーションツールあるいは翻訳アプリの紹介があれば助かると思います。例えばそのサイトにつながるQRコードが印刷さ

れた物を学校で配ったり、イベントなどで使い方を紹介するのも良いでしょう。とにかく外国人の目に留まる方法でのPRが大事です。そして実際、目の前で使ってみせるのも効果的だと思います。(西川ナンシ)

・サポート役のコーディネーターの配置

外国出身の生徒さんの入学や転入があった際に、一度「生徒、保護者、教員とサポートを行うコーディネーター」の4者で初期の段階で顔合わせ面談をするのはいかがでしょうか？一度顔を合わせることでお互いに話しやすくなると思います。紙ベースのお知らせを渡されてもおそらく内容が理解できない人もいます。慣れない日本語で知らない人と連絡とったり、改めて違う場所に出向くのはハードルが高いです。本人の生活中心となる場所で初期対応ができれば、ご本人と周りにいる人の負担が減らせます。また学校だけではなく、市役所や公共の窓口などで日本語教室の案内や同じ境遇の人が集まるサークルなどの案内をして頂けるとサポートの選択肢が増えます。相談できる人、頼れる場所がいくつかあるとよりよい問題解決につながります。今おかれている環境がどうしても子供に合わない場合、相談に乗ったり、転校を一つの選択肢として提案があっても良いと思います。大人は自分で選択することができますが、子供は置かれた場所で生きていくしかありません。相談できる場所や選択肢を示してくれる人が必要です。(西川ナンシ)

「2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み」

・「2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み」については前回の提案書に書き忘れた部分があったので追記します。大宮とか新都心など大きい駅や、観光地がある駅に観光スタッフを配置してくれると観光しに来た外国人が助かると思います、スタッフはボランティアの形でも良いと思います。通訳や道案内などのサービスが提供されると外国人が安心して観光が出来ると思います。ネットを使って色々な情報を収集することが可能となっていますが、地元の人の意見は最も信頼されると思います。(イユジン)

・すぐにできることという意味ではイベントも良いかもしれませんが、中長期的な戦略として、観光地として考えていくのであれば、イベントだけに頼ってはい今のままで終わってしまうと思います。すでに私の案は前回から出しておりますが、さらにアイデアとしては下記になります。

・埼京線高架下を有楽町のコリドー街のようにする おしゃれなレストランや有名シェフを誘致など(例えば、都内に行かなくてもハイレベルの食を楽しめる街というキャッチフレーズ)

・逆にナイトマーケットなどはB級グルメなど

・さいたま市は川が多いので、茨城の潮来川下りのようなことをする→日本文化的なので外国人は好きそう。(リアンダー・ヒューズ)

・外国人からさいたま市を訪れたいと思ってもらうためには外国人との交流も大事だと思います。そのため「(2) (ii)の箇所で、SNSを用いた交流や情報発信を多言語で積極的に行って下さい。」と変えるのはいかがでしょうか？(リム・キョンヒ)

・ホームページ、SNSについて

さいたま市及び（埼玉県）の魅力を最大限で持ち出す有効なツールは、デジタルソリューションズであると思います。HPとSNSのみではなく、より多くの会社と協力関係結び、地元企業のカも借りて、さいたま市の魅力をあらゆる面で海外へ発信することが良いと思います。（ライ・ウダラ）

・コンベンション、イベントについて：

国際的なコンベンションやイベントの誘致・開催するについてコメントしたいと思います。例えば2022年、さいたま市ワールドYEARというイベントを実施し、さいたま市の魅力を発信するため、国際交流市を12個選び、2022年に毎月その国との国際イベントを開催する。もっと若い年齢層の人たちがインターナショナルなコネクションができるように、さいたま市は国際シティーの魅力を出せるためのOne Year Projectにしていかがでしょうか？（ライ・ウダラ）

・2の(1)について、紹介以外、陶絵体験などのイベントをやって、外国人向けのスペースを作って、交流しやすい場所を作りましょう。（オウ・ライ）

・2の(2)について、各国の人の体験感も見えるなら、より良いと思います。（オウ・ライ）

・2の(3)について、具体例として、さいたまスーパーアリーナ、埼玉(さいたま)スタジアム2002を見学のイベントを使います。ミニオリンピックを行って、オリンピックの雰囲気を感じます。（オウ・ライ）

・(1)文化体験の紹介

コロナ禍で対面式のイベント開催が難しくなっている今、オンラインでのイベントが増えています。ただオンラインだと参加者のタイプが一部の人に限定されてしまう事が多いので、立ち寄りついでに他の物も見て頂くような仕掛けや発表者を一部の限られたプロだけに限定するのではなくお祭り感覚でたくさんの方がアピールできる場が出来たら良いなと思います。もちろん主催側の内容の精査が必要になりますが、その後に期間限定で写真あるいは簡単なメッセージを掲載するのも面白いでしょう。例えば、『埼玉の魅力』をテーマに外国人や地域の人たちが撮影した“あなたの自慢の1枚”を紹介！のコーナーなど。またそこに外国人が参加している体験型のイベント写真を載せれば、文化体験の紹介にもつながっていくと思います。（西川ナンシ）

・(3)コンベンション、イベントについて

さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002でのイベント誘致・開催の提案はとても良いと思います。国際的なイベントも凄く良いですし、埼玉県内のスイーツのイベントも面白いと思います。より多くの人を呼び込むには地域の人たちを巻き込むのも良いと思います。例えば、近隣の学校の生徒たちが世界の国々を調べた展示物を会場に飾るなど。（西川ナンシ）

・さいたま市ナイトマーケットに関して

武蔵浦和駅から別所沼公園の間に遊歩道がありますが、似たような遊歩道は、たくさんあると思います。そこを利用して昼間・夜間に関わらず、休日など人が集まりやすい日に 各国の留学生・在留者によって、その国の文化・民芸品・料理を提供する場を作る。その活動費の支援をしてはいかがでしょうか？（ゴンザレス・アドリアナ）

第5回委員会の意見内容について

令和3年9月27日（月）～10月22日（金）まで開催した、「第4期さいたま市外国人市民委員会 第5回委員会」の会議録について、以下のとおりである。

1 第4期さいたま市外国人市民委員会の提言書への意見について

「1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について」

・外国人の子育て・こどもの学校生活における必要な支援について「子育てをしている外国人の交流できる場が少ない」を「子育てをしている外国人の交流場の不足」などの言い方に変えるのはどうでしょうか。他の課題が名詞で終わっているようなので合わせた方がいいかなと思います。

続けて「いじめ、差別への対応」に関する項目がないので、(6) いじめ、差別への対応を追加して、対策を入れてくれるとありがたいです。対策としては、学校の道德の時間やいろんな授業を活用していじめ、差別の問題を減らす方法を考えてみるのはどうですか。(イ・ユジン)

・(1) 子育て家庭への支援

外国人家庭のための子育てサークルや、同じ境遇の外国人が積極的に交流できる場を作ってください。を以下に変更すると良いと思います。

→外国人家庭のための子育てサークルや、同じ境遇の外国人が積極的に交流できるオンライン、オフラインの場を作ってください。

変更理由:

外国人がさいたま市に転入してきた時にまず外国人のためのホームページがあれば、自分が住んでいる場所から近くにいる友達探しや趣味、育児の情報を得る事に繋がることが考えられるので、良いのではないかと思います。またそのためには地域に住み慣れている先輩外国人のボランティアを国際交流センターなどが募集をして、その方達の力を借りると良いと思います。

地域になじんでいる先輩外国人を通して日本の地域にスムーズにはいることが出来るため、地域社会との交流という面でも期待が持てます。(リム・キョンヒ)

・(4) 外国人の子どもが学校生活や日本での生活で困った事を相談できるカウンセラーや、サポート役配置をしてください。を以下に変更すると良いと思います。

→外国人の子どもが学校生活や日本での生活に慣れるため、また困った時には気軽に相談できるカウンセラーやサポート役を地域別に配置してください。

変更の理由: 地域に同じ国の人がいるという事は、外国人にとって心強い存在である。そのため、この場合のカウンセラーやサポート役はその地域に住んでいる先輩外国人のボランティアとして適任であると思う。また、この様なボランティア活動が外国人と日本人のコミュニティ創設の機会にも繋がると思う。(リム・キョンヒ)

・(1) 子育て家庭への支援

現在、さいたま市ではたくさんの外国人が生活しています。その中に、保育園、幼稚園、小学校に通学している子どもはたくさんいます。また、日本に来たばかり、日本語が話せない子どももたくさんいます。こういう子どもに情報を伝えるときは、担当先生がわかりやすく説明する必要があって、連絡事項を母国語で書けるなら、より良いと思います。ネットの通訳を使っても、良いと思います。(オウ・ライ)

・(2) 日本語支援

外国人の子どもたちの中、放課後に、日本語補習を希望する人が多いです。また、外国人の保護者に対しても、平日の夜間、土日などの時間に公民館や市の施設を活用した日本語教室を開校したらいいと思います。

その他、今コロナウイルスで、オンライン授業を行う必要があります。オンラインはどこでも、いつでも勉強することができますので、日本語学習にも良い活用をして頂けると嬉しいです。外国人たちが日本語、日本文化、習慣を理解すれば、日本での生活の不安が解消し、よい生活ができます。(オウ・ライ)

・(3) サポート役のコディネーターの配置

外国人の子どもが学校生活や日本での生活で困った事ことを相談できるカウンセラーや、サポート役の配置をしてほしいです。

外国人の子どもたちが困ったことがあるときは、母国語で相談できると助かりますので、県庁や市役所などに専門の相談員を配置し、朝9時から夜8時までの対応をしてもらえると嬉しいです。また、相談員が実際学校に行って、子どもたちに状況を聞くなど対応してもらえると助かります。(オウ・ライ)

・電車で緊急事態の時の車内アナウンスは日本語のみなので、語学力がない人は何が起きているのか判断がつかないので、英語用のアナウンスを用意して緊急時に読み上げる、または自動音声を通して伝えると良いと思います。(里村・オアナ・ジョルジアナ)

・多文化共生コーディネーターやカウンセラーによるサポート

離れた場所にわざわざ訪問するにも時間と勇気が必要だったりします。大人たちは自分で選択したり、自分たちでその場所に行くことができますが、子供たちは自分たちで訪問が出来ません。もっと身近な場所に頼れる人がいてくれると困った時に相談しやすいと思います。いじめ・差別の対応や、カウンセリングについても信頼関係がなければなかなか心の内まで話してくれない事もあると思います。何回か学校を訪れたり、イベントに参加したりして距離を縮めるのも必要だと思います。相談しやすい環境づくりが大切です。(西川ナンシ)

・人生のフェーズに合わせた内容の学習や語学のレベルに合わせてステップを踏んで上達していく学びの場があると将来性や生活の向上につながっていきます。日本語の習得は学校生活や地域の人たちとのコミュニケーションに役に立ち、良い人間関係を気付くことが出来ればさいたま市での生活もより良いものになると思います。(西川ナンシ)

「2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み」

・外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組みに関しては追加したいことがあります。どこの項目に入れてもらっても構いませんが（可能であれば（3） コンベンション、イベントについての方がいいと思います。）、「岩槻のヨーロッパ野菜」のことを紹介したらどうですか。健康的な生活への関心が高まっているので効果的であると思いました。（イ・ユジン）

・提言書の内容は、問題ないと思いますが、前の回答で説明したように、さいたま市の中長期的な観光の発展のために、単発のイベントだけに焦点をあてるだけではなく、長期的な観光客の集客を検討した方が良くと思います。ほとんどの観光客は、単発のイベントのためではなく、その場所が特別であり、他にはないものがあるので、その場所を訪れると思います。そこで、埼京線沿線で開催できるナイトマーケットや高架下の空き地を利用してレストラン・雑貨屋さんなどの誘致などのアイデアを前回出しました。残念ながら、これらのアイデアはどちらも第4期の提言書では取り上げられていないようです。

観光開発への長期的なアプローチは多方面での協力が必要となるため、努力が必要かもしれませんが、観光業への長期的な利益も大きくなるでしょう。ぜひ検討するに値する議題だと思っています。

今まで提案したアイデアとは別に毎日・毎月・朝・昼・夜など定期的に行うイベントなどはどうでしょうか。よく地方で見かける朝市のようなものです。さいたま市はいろいろな美味しい料理があります、例えば、肉汁うどんや味噌漬けの焼き鳥。ヨーロッパ野菜も生産して、その野菜は市内のフレンチ、イタリアンレストランが利用して、優秀な料理を作り出しています

(<https://www.city.saitama.jp/004/001/004/p041019.html>)。こういう料理を外国人に紹介できる定期的なイベントを行えば、観光客が徐々に増えるでしょう。駅に近いところにすれば、観光客が東京から電車で簡単に来られると思います。

1つのアイデアは大宮氷川神社についてです。とても美しく、歴史も長い神社ですが、英語で（日本語でも）あまり詳しく説明がないと思いますが、外国人の観光客はそうした説明に非常に興味を持っています。こういう情報を外国語で紹介する「ミニ博物館」を神社に近く作れば、もっと外国人の観光客が来ると思います。それが難しかったら、英語等で書いている綺麗なウェブサイトを作ればいいかもしれません。（リアンダー・ヒューズ）

・（1）外国の方が日本の文化を体験できる、紹介ウェブサイトを作成するとともに、の箇所で紹介ウェブサイトの後に下記のように「アプリ」という言葉を加えるのはいかがでしょうか。

→外国の方が日本の文化を体験できる、紹介ウェブサイトやアプリを作成するとともに、
（リム・キョンヒ）

・2 外国人がさいたま市を訪れたいとおもってもらえるための観光の取り込み

埼京線高架下有楽町のコリドー一街のようにするという案をととても賛同します。飲食は外国文化を代表することが出来るので、これをしっかり管理できれば、海外の文化をさいたま市の観光の取り込むことができ、良い影響を与えられると思います。（ライ・ウダラ）

・ 2-3 さいたま市ナイトマーケットについて、武蔵浦和駅から別所沼公園の間に遊歩道で民芸品や料理を提供する場を作ることについて。

これについて、とても良い案と思いますが、採用するときに注意すべきことは、衛生上の問題と周囲の住民との関係の事です。ここで気を付けるのは特にお年寄りの方に対する配慮です。衛生面では、イベントの翌日に食べ残しをきちんと清掃できていなかった場合、カラスの集まり場にもなりやすいため、周り住民の反感をかわれないように、注意すべきだと思います。(ライ・ウダラ)

・文化体験の紹介

外国人には、日本文化に興味を持っている人はたくさんいますが、専用のホームページがまだありません。パンフレットを作成し、観光案内所をはじめ、各区役所、市民センター、大宮、新都心、浦和駅に置く必要があると思います。(ラ・コウ)

・インターネットを活用する

(1) さいたま観光国際協会が作ったホームページを活用し、常に多言語で情報を発信する。今施設やツアーの予約はできないので、施設やツアーの予約をできるサイトを作ってほしいです。

(2) YouTube を活用し、さいたま市の有名な観光地や、おもしろいお店、きれいな公園の動画を撮ってほしいです。

(3) 外国人はほとんどの人が Facebook と LINE を利用していますので、専用の Facebook と LINE を作るのはいかがでしょうか。さいたま市の有名な観光地、面白い店、きれいな公園を多言語で、アップロードすると良いと思います。(ラ・コウ)

・コンベンション、イベントについて

(1) さいたま市が持っている資源を生かし、さいたまスーパーアリーナ、さいたまスタジアム 2002 の施設と連携して、国際的なコンベンションを開催する。

さいたま市では、オリンピック会場にもなる施設がありますので、この2つの施設を利用し、国際体育イベントを開催したら良いと思います。

コンベンションの際に、大宮の盆栽、岩槻の人形、浦和のうなぎ、漫画文化などのイベントを行い、情報発信をすることで、さいたま市の魅力を多くの人に伝えることができると思います。

(ラ・コウ)

・外国人の交流の場と文化体験の融合

コンベンション・イベントとしてでも構いませんが、さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム 2002 を使って『ワールド・スポーツ大会』をやってみるのはいかがでしょうか？参加者は外国人やその家族そして地域の住民たちで、国籍関係なく老若男女誰だれでも参加可能とし、誰でも簡単に出来る種目で、勝つ事よりも交流のきっかけ作りや楽しむ事を目的にしたものが良いと思います。そこでさいたま市の観光地の紹介があったり、ローカルフードを食べる事が出来れば良い文化体験になる気がします。普段と違う人と会うのも良い情報交換の機会になると思います。また地域の日本語教室の生徒たちやサークルの人たちを参加させることでその存在を知るきっかけにもなるかと思います。(西川ナンシ)

だい き
第4期

しがいこくじんしみんいじんかい
さいたま市外国人市民委員会

ていげんしょ あん
提言書 (案)

国籍の違いに関わらず、すべての市民が安心して、住み続けたいくなる魅力ある街づくりに向けて

私たち、第4期さいたま市外国人市民委員会は、今後さらに増加すると考えられる外国人市民にとって「安心して住み続けたいと思えるまち」、「魅力あるまち」を目指すため、次のように提言します。

1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について

外国人市民がさいたま市で子育てするときや、子どもの学校生活にあたっては、次のような課題が挙げられます。

- ・子育てをしている外国人の交流の場の不足
- ・日本語の支援
- ・学校から配布される書類の多言語化
- ・外国人の子どもをサポートしてくれる環境作り
- ・外国人保護者のPTAへの参加
- ・いじめ、差別への対応 など

これらの課題に対して、必要な支援や、適切な情報提供をして、外国人市民が安心して暮らせるまちづくりを目指してください。

(1) 子育て家庭への支援

外国人家庭のための子育てサークルや、同じ境遇の外国人が積極的に交流できるオンライン、オフラインの場を作ってください。また、外国人と

日本人の保護者が交流できる場を多く作ってください。

がいこくじん こそだ なか ひつよう じょうほう え
外国人が子育てをする中で、必要な情報がわかりやすく得られるようにし
てください。

(2) 日本語支援

がいこくじん こ ほうかご ほしゅうじゅぎょう おこな にほんご しえん おこな
外国人の子どもへ放課後に補習授業を行うなど、日本語の支援を行って
ください。また、がいこくじん ほごしゃ たい へいじつ やかん どにち じかん
外国人の保護者に対しても、平日の夜間、土日などの時間に
こうみんかん し しせつ かつよう にほんごきょうしつ かいこう ほか
公民館や市の施設を活用した日本語教室を開校してください。その他にもオ
ンラインでの日本語教室をレベル別に開催してください。

にほんご まな さい にほん せいかつ ひつよう しゅうかん にほんぶんか
日本語を学ぶ際に、日本での生活に必要なルールや習慣、日本文化につい
てもあわ まな せいかつ ふあんかいしょう
併せて学ぶことができれば、日本での生活における不安解消につながり
ます。

(3) 学校からの情報提供の多言語化について

がっこう はいふ しよるい たげんご ていきょう りそう ぼうだい
学校から配布される書類を多言語で提供してもらうのが理想ですが、膨大
なほんやくさぎょう ひつよう じょうほうていきょう
な翻訳作業が必要となるので、メールやホームページで情報提供してくだ
さい。ほんやく かつよう ひつよう げんご ほんやく
翻訳サイトやアプリを活用することで、必要な言語に翻訳することが
できます。

(4) サポート役のコーディネーターの配置

がいこくじん こ がっこうせいかつ にほん せいかつ な こま こと
外国人の子どもが学校生活や日本での生活に慣れるため、また、困った事を
そうだん
相談できるよう、カウンセラーや、サポート役の配置をしてください。各学校
はいち むずか しないかくしょ ちいきべつ はいち
に配置することは難しいかもしれませんが、市内各所への地域別の配置や、
がっこうほうもん でんわ たいおう しえん ねが
学校訪問、電話での対応などの支援をお願いします。

(5) PTAの参加への支援

日本語が理解できない外国人にとって、PTAの役割や活動内容を理解するのは、大変なので、外国人が参加しやすくなるようにマニュアルや、多言語での説明資料を作成してください。

(6) いじめ、差別への対応

異なる人種や価値観、習慣などを認め合えるよう、国際交流や国際理解の授業を行ってください。また、子どもが孤立しない工夫や、心が傷ついてしまった子へのケアを行ってください。

2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み

外国人が「さいたま市に来たい、来てよかった」と思ってもらえるまちづくりを進め、活気にあふれるまちを目指すため、次のように提言します。

(1) 文化体験の紹介・地域資源の活用

外国の方が日本の文化を体験できる、紹介ウェブサイトやアプリを作成するとともに、パンフレットを作成し、観光案内所に配置してプロモーションしてください。

また、ヨーロッパ野菜を使った朝一の他、氷川参道や遊歩道、高架下などを利用したマーケットなどを、駅の近くで開催するとより多くの観光客が楽しむと思います。

(2) ホームページ、SNS について

(i) さいたま観光国際協会かんこうこくさいきょうかいが作成さくせいしているホームページについて、多言語たげんごでの観光かんこうの情報じょうほう発信はっしんをしており、内容ないようも充実じゅうじつしていて良よいと思おもいますが、施設しせつやツアーの予約よやくまで出で来きると良よいサイトになると思おもいます。

(ii) SNS を用もちいた交こう流りゅうや、情じょう報ほう発はっ信しんを多言語たげんごで積せき極ごく的てきに行おこなってください。

(iii) YouTube を活かつ用ようし、さいたま市の観かん光こう地ちや、公こう園えん、お店の動どう画がを積せき極ごく的てきに発はっ信しんしてください。

(3) コンベンション、イベントについて

さいたま市が持もっている資し源げんや立り地ちをい生いかし、さいたまスーパーアーリーナ、埼玉さいたまスタジアム2002などの施し設せつと連れん携けいして、国こく際さい的てきなコンベンションやイベントの誘ゆう致さい・開かい催さいを行いってください。

コンベンションの際さいに、大おお宮みやの盆ぼん栽さい、岩いわ槻つきのにんぎょう人にん形ぎょう、浦うら和わのうなぎ、漫まん画が文ぶん化かなどを用もちいたイベントを行おこない、情じょう報ほう発はっ信しんをすることで、さいたま市の魅し力りよくを多おほくの人ひとに伝つたえることができると思おもいます。

だい き しがいこくじんしみんいんかい だい かいいんかい かいとうしょ
第 4 期さいたま市外国人市民委員会 第 6 回委員会 回答書

いんめい
委員名 _____

だい き しがいこくじんしみんいんかい ていげんしょ
1 第 4 期さいたま市外国人市民委員会の提言書について

ぜんかい しょめんかいぎ ていげんしょ あん み みな いけん
前回の書面会議で提言書の案を見ていただき、皆さまからいただいた意見をもとに別紙
2 のとおり修正・追記しましたので、意見を書いてください。

ていげんしょ いけん か ばあい べっし
提言書についての意見（書ききれない場合は、別紙でもかまいません）